

平成25年度 第1回教育課程編成委員会

大阪市立デザイン教育研究所

開催日時

平成25年12月10日

参加委員

常翔学園大阪工業大学 工学部 空間デザイン学科 特任教授
株式会社 近創 経営企画部 課長
大阪市立デザイン教育研究所 所長
大阪市立デザイン教育研究所 准教授

教育課程編成委員会 次第

1 今年度の計画

別紙カリキュラムによる説明

今年度の重点

読書・スケッチの習慣を身に付け、デザイン負荷に耐えられる力を付ける。

(スケッチ中心の動物園プロジェクトを前期にし、企画性の高い影絵を後期に交換)

2 前期の状況と結果

1年プロジェクトのグループ化に遅れ。2年のポートフォリオが進まない。

3 委員からのご意見

(司会者) 「委員の皆様のご意見を頂戴いたします。」

(委員) 「2年しかない(この学校の)エンドからみて、カリキュラムを考えるべき。プロジェクトでの様々なグッズ開発で、まず提案できる学生に書いてもらい、以外の学生がそれをトレースする。そのような進捗がよい。」

(司会者) 「動物園プロジェクトへの教員の重点配置も考えております。」

(委員) 「今の大学生には「下手」を問わなくなってしまっている。重点配置で各学生をしっかりと見てあげて、下手を問うのが良い。」

(委員) 「最近の学生はにわかデザイナー的な人が多い。ディレクターからの要求に対し、応用ができずに、トレースに走る。グラフィックを突っ込んで聞かれると答えを持っていないことが多い。」

(司会者) 「小さい頃から情操教育で力をためた人の、デザイナーとしての行き場を作るためにも、教員が深い問いを投げかけるべきということですね。」

(委員) 「グループワークの時間を保障して、デザインができない学生にもトライしてもらい、多くの仕組

みを作り、小さい実績でもほめることがプロジェクトに求められます。」

(委員) 「企業では社員個人の『感受性』を向上させる努力をします。作る側（工場）の立場にたった客観的視点を持つようにすることです。図面から空間を予測して、作業手順に潜む注意すべきポイントを見つけ出すなどです。」